

《編集後記》

『國學院大學 教育開発推進機構紀要』第5号をお届けする。今回は研究論文4点、研究ノート4点、取り組みレポート1点に加えて、シンポジウム「私立大学における学士課程教育と教養教育のこれから」の講演・討議録を収録した。

幸田論文は、留学生のための日本語教育の実践報告である。受講生自らが自立的な学習法を習得することを目標として、活動型授業を取り入れる試みを行い、そこから得られた効果と、今後の課題について論じている。

白川論文は、第2次世界大戦に「歴史」として接している日本人大学生を対象として、授業において、戦後の西ドイツがどのようにナチズムの過去に向き合ってきたのかについて講義し、ドイツの「過去の克服」についての感想を書かせることを行い、そこから見てきた、学生の日本の加害の過去に対する姿勢の複雑な様相について論じたものである。

二宮論文は、もともと音楽大学の学生を対象として考えられていた教育法であるリトミックが、小林宗作によって日本の保育現場に導入され、盛んに実践されて来たという経緯を紹介し、その上で、土橋五郎が作り出したと理解されている律動遊戯・表情遊戯に対する小林の批判に焦点を当て、リトミック導入にまつわる状況を明らかにしたものである。

吉住論文は、学習者の動機付けに効果的な英語指導の在り方を明らかにすることを目的として、Motivational strategiesを理論的枠組みとする混合研究法を用いた調査を行い、その結果について報告・考察したものである。

上原ノートは、会計基準がIFRSへと統合しつつある世界的動向の中で、大学における会計教育もまたIFRSを含めたものとなる動きが今後加速するだろうという見通しに則して、このような動向に適応した教育方針や具体的なカリキュラムを検討することの必要性を訴えたものである。

佐川ノートは、障害のある学生に対する学修支

援の現場において、いかなる支援を行うべきかを検討するための基本的概念を提示し、併せて、今後の学修支援には平成28年4月施行予定の「障害者差別解消法」を見据えた取り組みが必要であることを指摘したものである。

猿田ノートは、本学における小学校教員志望学生に対して、化学実験の経験の有無や、その内容に対する自信の程度をアンケートした結果に基づき、教職課程において、受講生が経験の少なさをゆえに内容理解に不安を有する実験・観察を重点的に取り上げ、実施する機会を設けるべきであることを指摘している。

東海林・鈴木ノートは、学修支援センターで実施してきた出席不良学生に対する呼び出し対応から見えてきた個別対応の重要性を指摘し、今後の学生対応の展望および学修支援センター相談室専任教職員に望まれることについて指摘したものである。

安倍リポートは、シャーマニズムについての一般的な通念に対して、アカデミックな立場からの言説がどの程度その立場を確保できるかという問題意識を念頭に置きつつ、「文化人類学」の授業で行った学生に対する意識調査を通して、一般通念との理解回路を見出そうとした試みについて報告したものである。

講演録は、本学創立130周年記念事業の一環として開催された教育開発シンポジウム「私立大学における学士課程教育と教養教育のこれから—建学の精神・キャリア教育・質保証—」の基調講演、パネリスト報告およびディスカッションを収録したものである。

今号は、本学の専任教員のみならず多数の兼任講師の先生方からも投稿をいただいた。今後も、様々な教育現場の実践事例の報告や、教育に活かされるべき高等教育に関する研究を掲載してゆきたい。本学の教育に携わる全教職員の積極的な投稿をお願いする。(鈴木)

《執筆者一覧》※掲載順

幸田 佳子 國學院大學文学部兼任講師
 白川 耕一 國學院大學文学部兼任講師
 二宮 紀子 國學院大學人間開発学部兼任講師
 吉住 香織 國學院大學文学部兼任講師
 上原 優子 國學院大學経済学部兼任講師
 佐川 繭子 國學院大學教育開発推進機構准教授
 猿田 祐嗣 國學院大學人間開発学部教授
 東海林孝一 國學院大學経済学部准教授
 鈴木 崇義 國學院大學教育開発推進機構助教
 安部 宰 國學院大學文学部兼任講師
 鳥居 泰彦 元慶応義塾塾長、元中央教育審議会
 会長、國學院大學理事
 長谷川岳史 龍谷大学大学教育開発センター長、
 経営学部教授
 柴崎 和夫 國學院大學教育開発推進機構共通教
 育センター長、人間開発学部教授

圓月 勝博 同志社大学文学部教授
 川島 啓二 国立教育政策研究所高等教育研究部
 総括研究官
 加藤 季夫 國學院大學教育開発推進機構長、人
 間開発学部教授

國學院大學 教育開発推進機構紀要 第5号

平成26年3月10日 発行

編集・発行者：國學院大學教育開発推進機構
 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10番28号
 TEL/FAX：03-5466-6742
 URL：http://www.kokugakuin.ac.jp/iatl/index.html
 印刷：株式会社 秀飯舎